

小売業から一念発起で乗り出した甘酒づくり

～地域資源の活用で大仙市の活路を見い出す発展大使～

No.93

あらほ
の
まちの人



藤本商店
代表 藤本 欣平

小売からモノづくりへ

昭和13年の創業以来「何でも屋さん」として地域で親しまれている藤本商店は酒類を中心に食品、雑貨販売などの小売業を営み74年。2代目である藤本欣平さんは商店経営のほか商工会理事や部会長などを務める傍ら、



14年前より甘酒の製造に乗り出し、今や首都圏や九州地方にまで販路を広げ意欲的に製造販売に取り組んでいます。

大仙市は出羽丘陵と奥羽山脈に囲まれた仙北平野が広がる、国内有数の穀物地帯。その大仙市太田町で生まれ育ち、豊穰な土地柄や自然の恩恵を受けてきた藤本さんはいつの日からか「自分にとっては当り前の太田の魅力を知ってほしい。太田の資源を活かして魅力を伝えられないか」と考えるように。そんな中、ある人から「太田の米で甘酒を作って欲しい。子供のころに飲んでいた手づくりの甘酒が今でも忘れられない。そして地域資源を活用した商品開発で地域活性化、雇用創出に繋げて欲しい」と言われ「これだ!」と一念発起。平成10年、昔ながらの製法による甘酒の製造に乗り出したのです。

こだわりの甘酒に販路開拓の壁

甘酒の商品化に向け、藤本さんは中仙地区の酒蔵(名)鈴木酒造店の門を叩きます。鈴木社長の指導のもと酒蔵の一角を借りながら試行錯誤を繰り返し、もち米と65%精米麹と水だけで作った無添加・無砂糖の「甘酒ほっと」がついに完成。そして、それからは販路開拓のための営業や商談、販促ツールの作成など、忙しい時には何足ものわらじを履いて奔走すること数年。「ところが自分が思ったほど売れなかった。一度飲んでさえもらえればいいのだけど、なかなかその「一度」に繋がらなくて。壁にぶち当たりましたね」と藤本さん。



塾への参加で得られた財産

藁をも掴む思いで応募した秋田県産品テスト販売制度。ここで好評を得て、県産品プラザ(秋田・東京)、秋田空港での定番化を獲得。その後、地元スーパーでの定番化を獲得す



るなど販路確保の気運が高まります。しかし、その一方で藤本さんは「取引先の確保と同時に『商談』を勉強し直したい。順調な時こそ学ばべきだ」と商工会が実施する農工商連携等人材育成事業「大仙発展大志(大使)育成塾」に参加。平成20年から4年に亘り農工商連携の基礎知識、商品開発、商談のノウハウを学び、東京での販売実習や展示商談会にも積極的に参加。「バイヤーや都会の人の反応に直接触れ、課題も見えたし自信もついた。そして何より講師、バイヤー、仲間とのネットワークという財産ができた。塾に参加して本当に良かった」と藤本さんの表情は活き活き。

はばたけ!大仙発展大使

昨今の麹ブームより「飲む点滴」と唱われ大注目を浴びている甘酒。「ブームに捉われず、これからもこだわり続けて地域の活性化に繋がりたい」と、ピカピカに手入れをされた調理釜を撫でながら、「今後は塾の仲間と連携して秋田、大仙の活路を見出し、大仙発展大使としてはばたきたい」と語る藤本さんの眼差しはしっかり遠くを見据えていました。

甘酒はビタミン類、必須アミノ酸、食物繊維が豊富な自然食品。冬はホットで、夏は冷やして美味しくいただけます。「甘酒ほっと」のパワーで疲れを癒し、心に安らぎを。

藤本商店

〒019-1602
大仙市太田町三本扇字今宿42-2
TEL・FAX:0187-88-2161
HP:<http://www.shokokai.or.jp/05/0543114047/>
「甘酒 藤本商店」で検索



河辺雄和商工会が、「がん重点補償」の純増口数ランキングで、前年度全国第1位を獲得しました! (純増実績16口)

共済金の請求手続等、何かあったらすぐに駆けつけたいという気持ちで保険をお薦めした結果が実績に繋がったとのこと。本年度4月1日より、がん・がん以外の病気やけがまで補償する「トータル「がん」補償」に加え、高血圧症・高脂血症・糖尿病等の既往症がある方も加入できる「シンプル「がん」補償」が新設されました。御興味のある方は、いつでもお気軽に商工会へご連絡ください。

あなたも家族もまるごと守る! 頼れる補償の

商工会の福祉共済

全国商工会員福祉共済

「けが」の補償
「病気」の補償*
トータル「がん」補償
シンプル「がん」補償がスタートしました!

商工会員10万人以上の方に
ご利用いただいています

お申込みはご加入の商工会まで

*「病気」の補償は「けが」の補償に加入されている方のみお申込みいただけます。



※この紙は再生紙を使用しています。